

「薬害」60人あす提訴

製薬会社側は有用性強調

子宮頸がんワクチン

国が一時、積極勧奨の対象としていた子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）をめぐり、重い副反応症状を訴える全国の女性約60人が27日、国と製薬会社2社に損害賠償を求め訴訟を東京、大阪、名古屋、福岡の各地裁に一齐起こす。全身の痛みや記憶障害は、予防接種が原因なのか。こうした副反応を「薬害」とする原告側に対し、世界保健機関（WHO）や学会は接種を強く推奨するなどワクチンの評価は二分している状態。製薬会社側は有用性を強調しており、法廷でも双方の主張が真っ向から対立しそうだ。

「階段上れない」

「ワクチンを打った後の私の症状が何だったのか、はっきりさせたい。『気のせい』『ショック』で終わらせたくない」と、関西在住の女性（17）はそんな思いで、大阪の集団訴訟に加わることになった。原告弁護団によると、女性は中学1年のとき、学校の案内を見て、HPVワクチン「サーバリックス」の注射を受けた。直後から接種を受けた腕の強い痛みや頭痛、体のだるさを感じ、3回目の接種後は症状がさらに悪化した。手足のしびれや全身のふるえのため教室で座っていることもできず、学校の階段も上れない。病院で精密検査をしても原因は不明。医師からは「気分を変えたら治る」「ヒステリー」と言われた。ある大学病院でようやく「ワクチンが原因」と診断され、治療を受けて症状は徐々に回復した。だが、体のしびれがふりかえすこともあり、不安は尽きない。将来

の案内を見て、HPVワクチン「サーバリックス」の注射を受けた。直後から接種を受けた腕の強い痛みや頭痛、体のだるさを感じ、3回目の接種後は症状がさらに悪化した。手足のしびれや全身のふるえのため教室で座っていることもできず、学校の階段も上れない。病院で精密検査をしても原因は不明。医師からは「気分を変えたら治る」「ヒステリー」と言われた。ある大学病院でようやく「ワクチンが原因」と診断され、治療を受けて症状は徐々に回復した。だが、体のしびれがふりかえすこともあり、不安は尽きない。将来

ちゃんとは妊娠できるのか、それが一番心配」と話す。WHOは推奨
国は平成25年4月からHPVワクチンを原則無料で受けられる「定期接種」の対象にしたが、健康被害の報告が相次ぎ、2カ月後には積極勧奨を中止した。原告弁護団は「ワクチンには免疫系の異常を招き、神経障害を中心とする副反応を引き起こす危険があった」と主張している。

中毒や免疫反応という見方に否定的な見解を示した。ただ、厚生労働省の別の部会は昨年9月、運動障害などを訴えた一部の患者について「ワクチン接種との因果関係を否定できない」として医療費などの支給を決めており、国の立場は必ずしも明確でない。WHOは2014年に「ワクチンは安全で有効」との声明を発表。翌年の声明でも「若い女性が予防でききるHPV関連がんの危険にさらされたままになっている」と日本の現状に警告を発した。日本産科婦人科学会や日本小児科学会など17団体も今年4月、積極

的接種を推奨する見解を公表している。ワクチンに対する評価が分かれる中で、厚生労働省が設けた2つの研究班が今年3月、これまでの研究成果を発表。このうち信州大の池田修一医学部長のチームは、ワクチン接種後に記憶

障害など「脳の動きの異常と考えられる症状」が出た患者のうち、7・8割が同型遺伝子を持っていたとのデータを示した。ワクチン接種による免疫反応が脳の症状を引き起こした可能性を示唆する内容だった。ところが、医師でジャーナリストの村中璃子氏が経済誌上で「データの比較に誤りがある」などと指摘。厚生労働省も翌月に「約8割」という数字は、確かなものとはいえない」として発表内容を事実上修正した。信州大では研究に関する予備調査委員会が設けられるなどワクチンをめぐる混乱はいまなお収まっていない。

- 子宮頸がんワクチンをめぐる主な経過
- 平成21年 厚生労働省がグラクソ・スミスクライン社のワクチン「サーバリックス」を承認
 - 22年11月 国が接種費用助成を開始
 - 23年7月 厚生労働省がMSD社のワクチン「ガーダシル」を承認
 - 25年4月 予防接種法に基づく定期接種がスタート。小学6年から高校1年相当の女子が対象
 - 6月 健康被害の報告が相次ぎ、厚生労働省が積極勧奨を中止
 - 26年1月 厚生労働省の専門部会が副反応は「心身の反応」との見解を示す
 - 27年9月 厚生労働省の別の部会が一部患者の痛みなどの症状について、「ワクチン接種との因果関係を否定できない」として医療費などの支給を決定
 - 12月 世界保健機関(WHO)が接種を強く推奨する意見を公表
 - 28年4月 日本産科婦人科学会など17団体が「積極的接種を推奨」とする見解を公表
 - 7月27日 副反応被害を訴える女性らが東京、大阪、名古屋、福岡の各地裁に一齐提訴へ



子宮頸がんワクチン 子宮頸がんは、性行為によるヒトパピローマウイルス（HPV）感染が主原因とされ、ワクチン接種などによって「予防できる唯一のがん」ともいわれる。厚生労働省によると、国内の患者数は年間約1万人、死亡者は3千人前後。日本ではグラクソ・スミスクライン社とMSD社のワクチンが承認されている。今年4月までに推計で約339万人が接種し、製造・販売業者と医療機関からの報告を合わせると、2945人から副反応報告があった。

テナント募集 月額106,000円 20坪(66.11㎡) 税別~

★近隣には近畿圏の高速道路網 ★警備員常駐・24h出入可能

ビル周辺の駐車場750台

大阪東部のメンテナンスサービス等の営業所に最適

東大阪のランドマーク 東大阪市西堀本通東1-1-1 東大阪大発ビル ☎06(6788)6661